

第1学年2組 国語科学習指導案

平成30年6月13日（水）第4時 1年2組教室 指導者 XXXXXXXXXX

1 単元 「ちょっと立ち止まって」 （4時間完了 本時3／4）

（1）単元目標

- ①筆者のものの見方や考え方を確かめながら読み、自分の生活と結び付けて考える態度を育てる。 【関心・意欲・態度】
- ②段落や、図と文章の関係に着目して、具体的説明の内容や筆者の考えを読み取ることができる。 【知識・理解】
- ③筆者の考えをもとに、自分の生活を振り返って説明文を書くことで、ものの見方や考え方を広げることができる。 【技能・表現】

（2）単元構想

本学級の生徒は朝の読書を通じて読書が習慣となっている。休み時間に読書をする生徒の姿も見られ、積極的に本に触れる様子が見受けられる。しかし、主に生徒が読む本は物語が多く、説明的な文章には慣れていないのが現状である。学年が上がるにつれ、素早く正確に必要な情報を文章から読み取ったり、段落や文章の構成を理解したりする力が必要になるため、第1学年の段階から説明文に触れさせ、苦手意識をなくさせたい。また、自分の楽しさや気持ちを優先して自己中心的な考え方をしてしまい、トラブルになってしまう生徒もいる。そんな生徒に、視点を変えて事柄を見たり考えたりするきっかけを与えたいと考えた。

そこで本単元では、『ちょっと立ち止まって』という説明文を扱う。この作品ではだまし絵という生徒の興味を引く面白い絵をテーマに絵の説明と筆者の考えが述べられている。平易な文体を貫きながら、興味深い内容に即した文章の展開がなされており、1年生が取り組む説明的な文章の学習にふさわしいと言える。冒頭の呼びかけの表現による問題への接近、続いて刺激的な具体例の提示、そして的確な話題の広げ方やまとめ方など、段落ごとに要点や論旨がはっきりと読み取れる教材である。さらに、「序論・本論・結論」という説明的な文章の典型ともいえる構造をもち、基礎・基本をしっかりと学ばせる教材として適している。また、日常生活での例を使うなど、説明的文章が苦手な生徒にも読みやすい文章である。普段、物語を読む生徒にとって説明文は読みにくいものであるが、本文中に登場する絵と関連付け楽しみながら説明文に触れさせるようにしたい。また、本単元の最後には生徒たち自身が説明文を作る活動をさせ、表現力を身に付けながら説明文の理解をより深めさせながら、さまざまな視点から物事を考えることの大切さに気づかせたい。

第一時では、本文への導入としていくつかのだまし絵を見せることで生徒に興味をもたせるのと同時に、扱う教材がそれらの絵の説明文であることに気付かせたい。第二時では、「序論・本論・結論」といった文章の基本的な構成を学ばせ、それぞれの論の役割や、本論でどのように絵の説明がされているかを学ばせたい。そして、第3時には、筆者の考え方や述べ方への理解をさらに深めさせるため、筆者の書き方の工夫を生かして説明文を作成するという言語活動を行うことを伝える。本時は、その説明文の作成の準備を行う。本文中に登場するものとは違う絵を用意し、説明文作成に必要な情報を整理させる。また、「見方を変えると、今まで気づかなかった全く新しい発見の驚きや喜びを味わうことができる」という筆者の考えに触れ、日常生活の具体例に関しても生徒同士で考えさせたい。そして、本時で説明文作成の準備をした後、本単元の最後となる第四時では、生徒一人ひとりに説明文を作成させて学級全体で発表を行い、生徒同士で学び合う場を設定する。絵によって楽しみな

がら本単元の学習を始め、最後には自分たちで説明文が作成できるようになったという達成感を感じさせつつ、筆者の考えをもとに、自分の生活を振り返らせることで、ものの見方や考え方を広げようとする姿を願う。

(3) 単元計画

学習内容	時間
・ 図の不思議なところを見つけよう。	1
・ 文章の構成を理解しよう。	1
・ 説明文を書くために必要なことは何だろう。	1 (本時)
・ 自分たちで説明文を書き、読み合おう。	1

2 本時の学習指導

(1) 本時の目標

・ 絵に関する説明とそこから考えられる日常生活の例を整理することができる。 【技能・表現】

(2) 展開

段階	生徒の活動	教師の活動
導入 6	1 ワークシート①で前回の復習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本題材の本論が見えるもの、見方、日常生活の具体例からなっていることに気付かせる。 ・ 本文中の橋と少女の例や、富士山とビルの例が日常生活の具体例であることに気付かせる。
課題 2	2 本時の学習課題を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習課題を黒板に貼る。
	自分たちで説明文を書くために必要なことは何だろう。	
究明 3 7	3 一枚目の図を見て不思議な点と見方を考える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 足が何本か数えられない。 ・ 一本目の足を決める。 </div> 4 二枚目の図を見て不思議な点と見方を考える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ ウサギとアヒルに見える。 ・ 片方の絵を捨て去らなければもう一方の絵が見えない。 </div> 5 三枚目の図を見て不思議な点と見方を考える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ LIFE の文字が隠れている。 ・ 黒い部分に注目する。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート②を配布する。 ・ 用意した三枚の図を一枚ずつ見せる。「この絵の不思議なところはどこでしょうか」 「どのように見たらいいのでしょうか」と補足する。 ・ ワークシート①のように、絵の不思議な点と見方を考えさせる。 ・ 生徒から出た意見を、黒板の絵と対応させ、ワークシート②の表のように板書していく。 ・ 絵がうまく理解できない生徒には、恐竜の足に注目することや、英語が隠れていることに気付かせる。 ・ 見方（見つけ方）がうまく説明できない

	<p>6 日常生活の具体例を話し合う。 (学び合い：グループ)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックで金メダルをとって注目されている選手の周りにはたくさんのサポーターがいる。 ・怖そうだと思っていた先生が本当は優しい人だった。 ・地球温暖化は大きな問題だけど、日ごろの小さな行いが関係している。 ・きれいにそろっているトイレのスリッパは実は誰かがそろえてくれている。 </div> <p>7 全体で発表し合う。(学び合い：全体)</p> <p>8 本時のまとめをする。</p> <p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本題材は図の説明、見方、日常生活の具体例で成り立っている。 ・筆者の主張「見方によって見えてくるものがちがう」は絵に限ったことではない。 ・絵の不思議な点、見方、日常生活の具体例を整理したら筆者のように説明文を書ける。 <p>9 次回の課題を知る。</p>	<p>生徒には、ワークシート①の見方を参考にしよう助言をする。</p> <p>「日常生活での具体例にはどんなことがあるだろうか」</p> <p>・ 結論（10段落）を読ませ、「見方によって見えてくるものがちがう」点が絵に限ったことではないと気付かせる。</p> <p>「日常生活の中で、筆者の考えを生かせる場面はないだろうか」</p> <p>「ちょっと立ち止まって考えた方がよいと思うことを探してみよう」</p> <p>・ 日常生活での具体例につながるヒントを用意しておき、意見が出ないグループに活用させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとに考えた具体例を発表させる。 ・ 見方を変えると見えるものがわかるように、矢印を使いながら板書していく。 ・ 整理した不思議な点、見方、具体例をもとに説明文を作ることを確認し、取り入れたい意見はワークシートに記入させる。 ・ 絵の不思議な点、見方、日常生活での具体例という筆者の述べ方をもう一度確認し、この3つの情報があれば筆者のように説明文が書けることを伝える。 <p>・ 本時でまとめたものを用いれば、筆者のように説明文が作れることを伝える。</p>
--	---	---

(3) 評価

- ・ 絵に関する説明をまとめ、日常生活の具体例を考えることができたか。 【技能・表現】
- 活動3～7の様子や、ワークシートに記入した内容、生徒の発言、発表から